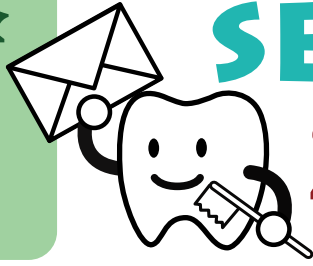
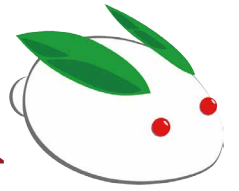


千歯会 だより



SENSIKAI 2018 冬号



粘土を口に入れる「型どり」、
被せ物を作る「技師」、
歯を削る「歯科医師」も？

未来の歯科ではアレがなくなる？

平成の時代になっておよそ30年。私たちの日常に様々な技術が取り込まれてきました。今回は「歯科世界の最先端技術とこれからの展望」について、大綱歯科医院の院長、刑部 順先生よりご寄稿を頂きました。



刑部 院長

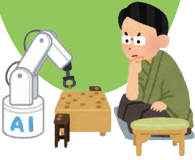
2017年現在、AI(人工知能)や、ロボットが注目を集めています。情報の仕組みのさらなる発展と先端技術が混ざり合い、10年後には様々な新しいサービスが生まれてきていることでしょう。

過去をみてみれば、1995年のWindows 95の販売を皮切りに、インターネットが一気に社会に浸透しました。ドコモが世界に先駆けて、インターネットを閲覧できる携帯電話を販売した際に、「そのような小さな画面で、インターネットを利用しない」という声も聞かれたが、スマートフォンが世にでて僅か10年で携帯電話から情報を得ることが当たり前となりました。

ミクシーやフェイスブックは、日常的に会うことができない知人・友人との緩やかながりを実現しました。インターネットを通して有名無名を問わず、人々が自由に情報を発信できるようになり、それがYouTubeのような新しい職業や、個人の不用意な投稿に対する社会の炎上という現象を生み出しています。

最近、話題になったところでは将棋が挙げられます。数年前から、プロ棋士とコンピュータの対局が行われていますが、2016年、2017年の対局では、コンピュータの全勝という結果となりました。テクノロジーの進化によつて、今までは考えにくかったことが起きたわかりやすい例かもしれません。歯科の世界も決して例外では、ありません。近年のデンタルショーにおいても、先端技術をアピールする展示が、多く見られたようです。

「勝負」から「共に研究」の時代へ



2016年に野村総合研究所が発表したレポート『Society 5.0へのアプローチ』において、職種ごとのコンピュータ化可能確率と雇用者数の分布というスライドがあります。

AI・ロボットなどの発達により社会が大きく変化していく中、さまざまな職種ごとのコンピュータ化可能確率が出されており、例えば会計事務に従事者、配達員、ビル・建物清掃員などの仕事は95%以上の確率でコンピュータに取って代わられると予測されています。

そこにおいて、AI・ロボットなどの発達により社会が大きく変化していく中、今後10年で歯科医師の仕事がコンピュータ化される可能性は僅か0.4%となっています。非常に低い数字と言えます。あるプロ棋士は将棋コンピュータについてきかれ、「人間と比べるとコンピュータの能力の進化は限度がないです。そういう意味では人間とコンピュータが勝負する時代ではなくなったのかなと思います」と答えたといっています。

テクノロジーが医療を提供する側、受ける側、双方に恩恵をもたらしてくれることを願います。

未来の「型どり」

口腔スキャンで「光学印象」

歯科で型をとるのが苦手という人は、少なからずいます。中には恐怖心すらおぼえる人もいます。光学印象は、粘土状の印象材を大量に口の中に入れるという、今までのスタイルを変えるかもしれません。

光学印象は口の中をセンサーでスキャンするといふもので、写真を撮影するイメージに近いものです。

未来の「かぶせ物」

立体図面どおりに作る「CAD/CAM」「3Dプリンター」

かぶせ物や、詰め物はその歯にあった形のものを作らなくてはなりません。したがって、この世に同じ形のもの一つも存在しません。そのため、一つずつ人の手によつて作られてきました。CAD/CAM、3Dプリンターは人の手に代わって、機械が自動的に作る技術です。

これらの技術は既に一部で実用化されています。少し前までは正確さや、色などで問題がありましたが、現在では使用に耐えるものになっています。

未来の「歯科治療」

歯を削る・手術もする「歯科医師」ロボット

歯科医師の仕事として、誰もがはじめに思い浮かべるのは、歯を削るということかもしれません。大学や公的研究機関等の研究成果の実用化支援などを目的とした「イノベーション・ジャパン2017」大学見本市&ビジネスマッチングにおいて、鹿児島大学 大学院歯学総合研究科 先進治療科学専攻の研究チームが「ロボットが歯を削るー歯科治療ロボットの開発」というタイトルにて展示をしました。

また、中国の西安においては、歯科医師ロボットによるインプラント手術が行われました。術中、スタッフが待機していましたが、手術はロボットのみによつて行われたようです。全自動で行われたインプラント手術としては世界初のケースのようです。

他にも、歯科医師ロボットの話題として、今年3月7日に米国のアメリカ食品医薬品局(FDA)が、インプラント手術専用のロボットYomiを承認したというニュースがありました。

このニュースは、「Game-changing」となるテクノロジー。つまり、「医療のあり方を大きく変えうるテクノロジー」への承認などと報じられました。

大網歯科医院

<冬の風邪・インフルエンザ対策>

冬になると、なぜ風邪やインフルエンザが流行するのでしょうか？

原因の一つは乾燥です。

乾燥している状態では、ウイルスや細菌が纏う水分がすぐに蒸発し、軽くなるため、空气中を漂う時間が長くなるからです。

湿度が保たれていれば、水分を失わないウイルス、細菌はすぐに地面に落下します。

冬の風邪対策にはまず手洗い、そして湿度を保つことがとても重要です。

また、口の中の環境が悪いとインフルエンザになりやすいとの報告があります。歯磨きをきちんと行い、口腔環境を整え、免疫力を高めましょう。

今後、更にインフルエンザなどが流行してくるので、気をつけましょう。

片貝デンタルクリニック

フッ素配合歯磨き剤の効果



フッ素配合歯みがき剤には、どんな働きがあるのでしょうか？

フッ素の働きは、大きく分けて3つあります。

- ・酸に融けた歯の再石灰化が促進される
- ・虫歯菌の活動を抑える
- ・歯質を強く丈夫にする。

これらの効果が発揮されることにより、むし歯を予防していきます。

おゆみ野総合歯科クリニック

こんにちは、歯科衛生士の坂本です。
今回は歯石について解説します。



歯石とは？

歯垢（歯の表面につく、黄白色のネバネバした汚れ）が残ったままになると、約2～3日で石灰化し、硬い歯石となります。歯石の表面はザラザラしているため、細菌が付きやすく、むし歯、口臭、歯周病などのリスクを高めます。歯石は付着すると歯磨きでは落とせないため、歯石になる前にしっかりとケアをすることが大事です。

もし歯石がついてしまったら……

歯科医院で早めに取り除いてもらいましょう！
また歯石を取ったあとは定期的なメンテナンスを受け、歯周病・虫歯予防することをお勧めします。

訪問事業部

Q. 口腔ケアを行う前に、声かけ・説明って必要？

A. 「今からお口の中のおそうじします」という説明が必要です。



お口はとても敏感な器官です。なんの説明もせずにいきなり口腔内を触れてしまうと口腔ケアへの拒否がより強くなります。お口というデリケートな場所に触らせていただくということを思い出して、高齢者と接してみてください。

気持ちの良い口腔ケアを受けていただくために、会話はとても大切です。会話はお口のケアと関係が無いようで実はスムーズな口腔ケアへの一つのポイントなのです。